

# 2016鹿児島県男女共同参画週間事業

7/25～31は、県の男女共同参画推進条例で定められた『男女共同参画週間』です。女子差別撤廃条約が日本で効力を発した1985年の7月25日を記念して、この日から1週間を本県独自に定め、県民の皆様へ男女共同参画について理解と関心を深めてもらうため、民間団体との協働により様々なイベントを行っています。今年の週間事業は、かごしま女性政策研究会と協働で2025年問題に焦点を当て、基調講演、ワークショップ等を通して、世代を超えて、「支える側」と「支えられる側」が分断されない“一人ひとりの人権の尊重”に根差す男女共同参画の視点に立った地域づくりなどについて考えました。

## ワークショップ for おとな（7/30）



【ファシリテーターの高崎さん】

ファシリテーター：高崎 恵さん（ワークショップデザイナー）

助言者：宮本太郎さん（基調講演講師）

基調講演での“気づき”を手掛かりに、“私”にとっての2025年問題”をテーマに、性別・世代・障害の有無等を超えた多様な立場の人たちとの交流・対話を目的にワークショップ「しみんラボ!」を実施しました。参加者それぞれが、基調講演を聴いて、印象に残ったことや思ったこと・考えたことをスケッチブックに書き出し、それらを基に、これから私たちに何ができるかを提言にまとめあげることにチャレンジしました。その際、高崎さんからは、それぞれが、相手の意見を否定や批判するのではなく、違うな～と思ったら、率直に丁寧に違うと思う理由を話す対話形式（1メッセージ）を進めていくようにとのことのお話がありました。短い時間でしたが、各グループで、それぞれ「個人」の思いや考えを重ねて、『「私たち」の未来への提言』を創り上げる経験を共有できました。また、グループによる提言発表後、宮本さんから、今後、提言を具体化するための方策等について基調講演でお話できなかった概念等も含めて具体的に助言いただきました。



参加された方からは、「講演後のワークショップで考えや思いを深めることができ、大変よかったです」という感想が寄せられました。

## ワークショップ for こども（7/31）

ファシリテーター：高崎恵さんと男女共同参画ジュニアリーダー

じゆうをもっとたの  
しくをもっとすきに  
なろうよ! えほんづくり  
ワークショップ

男女共同参画ジュニアリーダーが誕生して3年目の今年も、企画・実践のあらゆる段階でジュニアリーダーが活躍し、今回のタイトルも考えてくれました。子どもたちは、日常ではない場の中で、それぞれの得意・苦手を助け合ったり、補いあったり、自分自身で乗り越えたりしながら、少ない道具の貸し借りや順番待ちをしながら、いろいろな材料を、工夫を働かせて、世界に一つだけの絵本を作成しました。その後、作品をみんなで自由に見て回る「ぐるぐる展覧会」を開催しました。高崎さんからは、それぞれの作品と子どもたちに対して、性別や年齢にかかわらず、一人ひとりに個性があるからこそ、今日の工夫が生まれたことや、自分ひとりではできないと思っていたことも、他者との関わりの中でやってみよう!と思えたこと等、作り上げるプロセスを評価するさまざまなやさしいコメントがありました。

【左から男女共同参画ジュニアリーダー4名と高崎さん】



## 展示（7/25～31）

男女共同参画の視点でみる

2025年問題

7月25日から31日の期間中に、県庁18階ロビーと県民交流センター2階展示ロビーで、パネル展示を行いました。2025年まで10年を切った今…、私たちの暮らしの現状を見つめ、今後を考える契機とするため、男女共同参画の視点から見た2025年問題に関わる9つのデータ（人口構成、介護、子育て、就労、高齢者世帯や母子世帯の暮らしの現状など）を取り上げました。あらためて、私たちの未来について世代を超えて考えるきっかけとなったことと思います。また、今回作成したパネルについては、週間事業終了後、県教育委員会を通じて、各学校での啓発用教材としての活用を依頼したところ、早速、文化祭等で展示していただける学校からの申し出がありました。

